Z408b　光 · 赤外線天文学大学間連携による短期滞在実習プログラムの実施 (3)

大朝由美子 (埼玉大学), 高橋隼 (兵庫県立大学), 光 · 赤外線天文学大学間連携観測チーム

光 · 赤外線大学間連携事業では，2013 年度から，参加機関に所属する大学院生や若手研究者を対象とした短期滞在実習プログラムを実施している。本プログラムでは，自身の所属する大学/機関以外の望遠鏡や観測装置を利用した観測/解析，もしくは，観測装置/システムの開発に関わり，発展的に学ぶ機会を設けている。参加者は，それぞれの研究活動の発展やスキルアップを目的として，光赤外大学間連携の中の機関 (北海道大学，埼玉大学，名古屋大学，京都大学，兵庫県立大学，広島大学，鹿児島大学，及び群馬県立ぐんま天文台) から滞在先を選択し，1 週間前後滞在して，各自が設定したテーマに関する実践的な実習を受けることができる。「分光データ解析による研究を進めているが，自ら分光観測を行なって学びを深めたい」,「装置開発について専門の研究者から学びたい」などの要望を持った学生等の参加を想定しており，本プログラムによって， 参加者の研究や視野の幅が広がり，研究が発展することが期待される。

第 1 期大学間連携では，4 年間で 16 件の滞在実習 (分光観測 5，装置/システム開発 5，偏光 3，近赤外測光 2) が実施された。全大学で測光観測は可能なため，分光観測や装置/システム開発の要望が高いことが分かった。

2018 年度から始まった第 2 期大学間連携では，まず，新たな形態での教育事業として zoom を用いた初心者向け IRAF 講習会が実施された。一方，多人数を対象にした講習会のみでは対応し難い，個別的で多様な学習の要望があることも明らかになったため，2019 年度から短期滞在実習プログラムが再開された。2019 年度に実施された短期滞在実習プラグラムには 4 件の応募があった。本講演では 2019 年度の実施内容について報告するとともに，今後の本プログラムのあり方について議論したい。